

アセットマネジメント事業の概況

好調なファンド運用実績

「ソフトベン2号投資事業組合」は、年間投資家利回り20.4%でクローズ

アセットマネジメント事業の主要企業

ソフトバンク・インベストメント(株)	ファンド事業の中核会社
SBIキャピタル(株)	企業再生およびメザニン投資ファンドの運営・管理
SBIアセットマネジメント(株)	証券投資信託委託業務
SBIアルスノーバ・リサーチ(株)	オルタナティブプロダクトの組成・運用管理
SBIパートナーズ(株)	JASDAQ上場(Code No.9653):不動産関連事業

持株会社体制への移行とアセットマネジメント事業の再編

SBIグループは、グループのガバナンス機能を強化・充実するため、2005年7月1日に持株会社体制へと移行しました。これに伴い、SBIホールディングス(株)旧商号ソフトバンク・インベストメント(株)の行っていたファンド運営事業については、会社分割により子会社であるソフトバンク・インベストメント(株)旧商号「SBIベンチャーズ(株)」に移管しました。

また、ソフトバンク・インベストメント(株)にSBIグループのファンド運営事業を集約するため、ソフトバンク・インベストメント(株)はIT関連ファンドの運用者であるソフトバンク・コンテンツ・パートナーズ(株)およびバイオ関連ファンドの運用者であるバイオビジョン・キャピタル(株)を吸収合併しました。

投資実績(トラックレコード)の着実な積み上げ

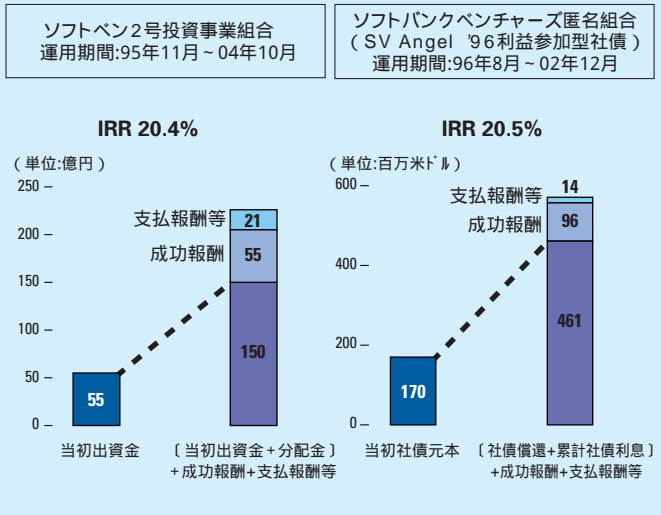
1995年11月に設立した「ソフトベン2号投資事業組合」を2004年10月に早期償還させ、年間投資家利回り(IRR)20.4%を確保しました。2002年12月に運用を終了した「ソフトバンクベンチャーズ匿名組合」(年間投資家利回り20.5%)の投資結果に加えて、当社のファンド運用実績に新しい成果を積み上げました。

ITファンドの運用状況

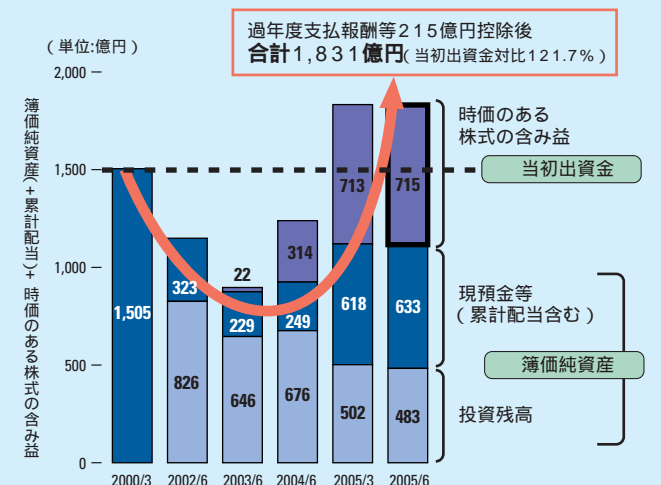
2000年3月から7月にかけて、当初出資金1,505億円 で設立された旗艦ファンド「ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド」(以下、「ITファンド」)は本格的な投資の収穫期に入り、運用期間を2年間延長しさらなる運用利回りの向上を目指しています。

2005年6月末時点での同ファンドが保有する時価を有する有価証券の含み益は、715億円あり、投資残高、現預金、含み益の合計は、過年度支払い報酬約215億円を控除後で、1,831億円となりました。なお、弊社は、2005年6月に本ファンドの出資口を505口追加取得し、現在、619口(41.1%)を保有しています。

償還したファンドのパフォーマンス実績



ITファンドの運用状況と成功報酬体系



成功報酬の算出テーブル

当初出資金を越えるキャピタルゲイン に対する成功報酬の割合

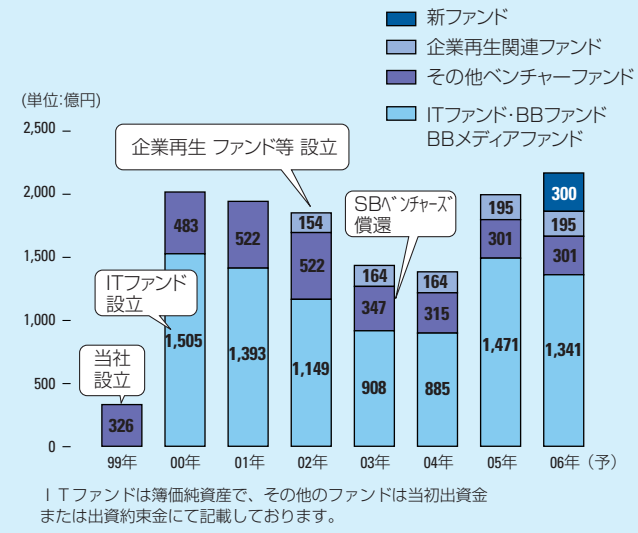
- ・ 50%以下の部分 20%
- ・ 50%超200%以下の部分 35%
- ・ 200%超 50%

キャピタルゲイン 簿価純資産 - 当初出資金

引き続き好調な投資先の新規公開およびM&Aを通じたExit

2004年1月から同年12月までの期間における新規公開およびM&Aは20社の目標社数を達成しました。2005年についても同様に20社程度を目標としており、2005年8月現在10社が新規公開またはM&AによってExitしています。

SBIグループ運営ファンド総額の推移



次期旗艦ファンドを設立、今後とも積極的な投資を展開していきます

ITファンドの後継旗艦ファンドである「ブロードバンドファンド」(SBIブロードバンドキャピタル投資事業匿名組合とSBIブロードバンドファンド投資事業有限責任組合を総称)の募集が順調に進み、535億円の募集が完了しました。個人投資家からの募集分については、1口100万円に小口化して販売しました。ベンチャーキャピタルファンドをこのように小口化して販売するという事は、日本では画期的な試みであり、グループ証券会社3社が208億円分を販売しました。

また、2005年3月24日には、(株)フジテレビジョン、(株)ニッポン放送と共同で「SBIビービー・メディア投資事業有限責任組合(通称:SBIビービー・メディアファンド)」を当初出資金額200億円で設立しました。このファンドは、次期旗艦ファンドとなるブロードバンドファンドの衛星ファンドのひとつとして、ブロードバンド関連事業、コンテンツ事業、メディア関連事業に積極的な投資を展開してまいります。

企業再生分野においては、SBI・LBO・ファンド1号の運用が好調に推移しており、2005年3月末における同ファンドの時価純資産は、累計配当金および支払報酬等累計を含め、当初出資金50億円対比198.9%となる108億円に達しています。メザニン投資およびDIPファイナンスに特化した31億円のパイロットファンドであるSBIメザニンファンド1号は、2004年8月23日の設立から2005年5月末までに25社のディールをクローズし、平均収益率13.2%を記録しました。SBIメザニンファンド2号では、外部投資家を加え、70億円で6月1日から投資開始。既に、新規ディール4件・約10億円をクローズしました。今後、さらに多くの投資家を募り、運用資産を100億円まで増額する予定です。

バイオビジョン・ライフサイエンス・ファンド1号は、2003年12月24日の設立以来、創薬系のバイオベンチャー企業11社に対し25億円の投資を実行しました。投資先であるMediciNova, Inc.が2005年2月8日大証ヘラクレスに上場したのをはじめ、有望な投資先に投資しており、この実績をベースに2005年8月に2号ファンドを設立し、出資約束金を105億円としました。

また、2005年5月にはシンガポールの投資会社TEMASEK Holdings (Private) Limited (テマセク・ホールディングス)の

100%子会社であるMacRitchie Investments Pte Ltdと、有望な中国企業を投資対象とする当初出資額1億米ドルの投資ファンド「New Horizon Fund」を共同設立しました。中国において業界トップクラスに位置する優秀な経営陣をもつ企業を対象として投資し、中国経済の今後の高い成長を見込み、その経済成長力を投資収益として取り込んでいくことを目指しています。

このように、各ファンド事業とも順調に進捗しており、今後もファンドの運用総額2,000億円前後を維持しながら同事業を推進していく方針です。



ソフトバンク・インベストメント(株)
代表取締役執行役員COO
澤田安太郎